

やすらぎだより

11
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それがやすらぎ園です

コラム第125号

「40年の足跡」前篇

施設長 植田 誠



平野部ではないここ福住の地でさえ、その日の積雪は類いまれな深さであったという。40年前の昭和50年12月3日やすらぎ園が開園したその日その朝、当時まだ全線が4車線化していなかった名阪国道は言わずもがな通行止めとなり、車線を逆走しながら辿り着けたことで迎えられたオープン式典。あの日からもうすぐ40年を数える。

そこで節目を迎えるに当たり、次号にわたって‘画期的’な記念連載を記すこととする。

まずは元一日の歴史を紐解こう。創設者である父植田与志夫は「中風(現在で言う脳血管障害等の後遺症)の方を助けたい」との一念から、開設を決心した。今も口癖は

「何も無い私一人ではどうしようもない。大勢の方の御寄附という真実が集まったお陰や」

「そして神様のお働きをいただいたからこそや」

現実の姿を通し真理を極めたその言葉には、今も説得力が満ち溢れている。

現在、県内には特別養護老人ホームは96ヶ所あるが8番目、天理市では最初に開設したこのやすらぎ園は、70名定員の特養としてここにスタートしたのである。

福祉のイロハが熟知されているわけではない、現在のような‘権利擁護’という言葉も浸透してはいなかった。「措置」という制度に行政自体が手探りの中、皆は向き合ってきたのであろう。当時の言い回しなら「困っている目の前の方をお世話する」、福祉の原点ともいべき現実がここにも存在した。

明治大正そして昭和という激動の時代を生き抜いた入園者(当時の呼名)の方と職員達は、規制や律格が空疎な時代に、まさに自家製の福祉と介護を築き上げてきたと言えよう。歴史から学ぶためには、先ず歴史を知ることから始まる。

40年の足跡、時代は昭和から平成へと移り変わる。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- | | |
|--|--|
| ○特別養護老人ホーム やすらぎ園 | ○ケアハウス やすらぎ |
| ○在宅サービス事業所
居宅介護支援事業所
訪問介護事業
訪問入浴介護事業 | ○介護予防関連事業
○グループホーム むつみあい
○天理市ひとり暮らし
高齢者世帯等見守り事業 |
| ○短期入所生活介護事業
○在宅介護支援センター
○天理市東部地域包括支援センター | ○低所得高齢者等住まい・
生活支援モデル事業 |